

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100013		
法人名	医療法人 崇敬会		
事業所名	グループホーム「さくら」東館		
所在地	福島県田村市船引町船引字馬場39-1		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・医療機関が併設されている為、体調の変化に対しいつでも対応できる。
- ・周囲が田畑に囲まれ、静かな環境で生活できる。
- ・ご本人をご家族と職員が一緒に支えられる様に努めている。
- ・季節にちなんだ行事がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員間のコミュニケーションがよく、職員が連携して利用者に寄り添いながら、明るく笑顔で接しているため、利用者は落ち着いて穏やかに過ごしている。
2. 日頃から利用者・家族の意見や要望等を聞き取り、速やかに対応しているため、利用者・家族との信頼関係が構築されている。
3. 事業所は、日頃から同一敷地内の同法人他事業所と連携を図っており、非常時や緊急時等の連携体制が確立されており、利用者・家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・フロアー・事務所等目に留まる所に掲示して共有を図っている。実践に繋がるよう努力している。	地域密着型サービスの役割を反映した理念は、事業所内各所(玄関、ホール、事務所等)に掲示しており、日常的に確認しながらケアにあたっており、実践につながっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と挨拶を交す事を大事にしているが、それ以上の交流には至らずそのきっかけが掴めずにいる。努力する必要がある。	日常的には近隣の人と挨拶をする等、交流が行われている。また、傾聴・朗読・ひよっこ踊りボランティア等が定期的に事業所を訪問し、事業所からは利用者と地域の祭り等に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所と地域の交流が努力が必要な状態にて、地域貢献活動も行えていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っている。そこで出た意見や課題については、職員会議で取り上げ話し合う機会を設けている。	年に6回、運営推進会議が開催されている。事業所の状況を報告し、参加した委員からは意見や提案が出されており、サービス向上へ活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡・相談を行っているが、積極性に欠ける。	震災後の対応等、わからない事があったときは、市の担当者に相談したり、連絡したりしながら対応した。日常的には、介護認定の見直しや定期的な利用者状況の報告の際に訪問し、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為の努力はしているが、身体悪化防止を理由にやむを得ず身体拘束がなされている方もいる。解除に向けて、今後も検討・努力を続けていく。また、正しく理解する為に勉強も必要である。	骨折後の利用者の再骨折を避けるために、家族からの理解を得て、車椅子への拘束等が行われている。また、東館の玄関は日中、開いているが、西館の玄関は構造的に職員の見守りが充分できない状態であるため施錠されている。	ユニットごとの玄関は居室入口と同等に日中施錠せずに対応して欲しい。また、利用者が重度化していることから、介護従事者の充実を図る等工夫しながら身体拘束は、生命の危機を伴う場合に一時的なものとして対応するよう、取り組んで欲しい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉・身体的虐待が行われる事の無い様ケアに努めている。虐待のニュース等について職員間で話し合い、関心を持つようにしている。改めて学ぶ機会を持ちたい。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、必要があれば対応できる。過去に学んだ事はあるが、改めて学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等についてきちんと理解・納得して頂けるよう十分な説明を行い、質問や不明な点についていつでもフォロー出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に意見・要望を伺うようにしている。それらを会議等で話し合い、改善に繋がるようにしている。	家族の来訪時には利用者の日頃の様子を詳しく伝え、家族の意見を聞いている。聞き取った意見等は、会議で報告し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で意見・提案を聞く機会を設けており、それらを代表者に伝えている。	管理者は日常業務の中で職員の意見等聞き取っており、職員会議等でも職員の意見や提案が出されている。職員の意見をもとに早番の勤務時間を見直している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者のより良い処遇に努める事が職員の為にもなるとの意識を持って働けるよう、人事評価も考慮して努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や必要性のある研修には参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具体的なネットワーク作りが行えていないので、今後取り組んでいきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査やセンター方式でそれまでのご本人の様子の把握に努めると共に、傾聴を心がけコミュニケーションを図りながら良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査等でご家族からの不安や要望を伺って対応できるよう心がけ、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談の際にご本人の状態等をよく伺い、グループホーム対象でないと思われる方には合っていると考えられるサービスについて説明する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今年は利用者と協力して、手作りで味噌・梅干し・あんこ・甘納豆を作った。理念にも掲げている‘気持ちを共有し寄り添うケア’を心がけているが、更に努力したい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の様子を伝えるだけでなく、不安に思っている事や気になる事を伺い話し合っ、一緒に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊は自由なので、自宅に帰る方がいたり、親類や知人が面会に来たりしている。本人の自宅方面にドライブに行く事もあるが、体調面の考慮もあって全員が行ける状況にはない。	家族の協力を得て、自宅や選挙等へ出掛けたり、職員と自宅方面へドライブに行くこともある。また、家族・親戚・知人が事業所に来てくれた時には、お茶を出しゆったりと過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立する事の無いよう見守り、必要に応じて職員が間に入る等している。更に努力したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、相談があれば対応できる。入院された場合は面会に行く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から聞き取りをし、希望・意向の把握に努めている。訴えが困難な方に対しては、家族の話や日々の様子から得られる情報を基に本人本位に検討している。	日常的な関わりの中から利用者の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合は、家族からも情報を得て、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、本人や家族から聞き取りを行い把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、日々の様子を観察し、それらを詳しく記録に残す事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から伺ったニーズを基に、会議で検討し介護計画を作成している。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況の変化、職員の気づき、モニタリング結果等をもとに現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に沿った内容を詳しく記入している。記録に目を通したり申し送りして情報を共有し、実践や見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて柔軟な対応ができるよう、その都度職員間で話し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室に理髪を依頼、毎月一回のペースで傾聴ボランティア・朗読奉仕の方が来訪して下さっている。地域の花火大会を皆で見学している。地域資源をもっと活用できるよう努力したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医療機関があり、入居をきっかけにかかりつけ医を変更する方も多い。医療機関と連携をとり、定期的にも緊急時にも支援できている。	入居時に利用者・家族の希望を聞きほとんどの利用者は同法人の併設病院をかかりつけ医としている。受診の際は職員が同行し、結果を家族に報告し情報の共有を図っている。併設病院以外の場合は家族が同行し、結果は家族より報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいる。毎朝の健康チェックでの変化以外にも気になる事等は看護師にいつでも相談でき、指示を基に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医療機関や家族と情報交換を行うように努めている。併設医療機関との関係づくりはしっかり行っているが、それ以外の病院とはその時々である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、重度化した場合における方針の書類を基に当施設でできる事を十分に説明し理解を得ている。体調の変化に応じその都度話し合っている。急変時の搬送先は入居時から確認。地域とのチーム支援には至っていない。	事業所の「重度化した場合における対応に関する指針」は、入居時に利用者・家族へ説明し、同意を得ている。重症化し急変した場合は法人の病院で対応することとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルがありそれに沿って対応するようになっているが、定期的な訓練は行っていないので今後行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っている。併設機関からの応援体制はあるが、地域との協力体制はとれていないので今後整えていきたい。	年に2回の避難訓練と消防点検は行われているが、消防署立会の訓練や地域の協力体制はまだ構築されていない。備蓄は法人全体として行っており、災害時も安定した供給が得られる体制になっている。	災害時に全職員が的確に利用者を避難誘導出来るよう消防署立会の訓練や夜間想定訓練を数多く行い、課題の把握に努めて欲しい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声かけを行うよう努めているが、日々反省する点も多く、更に努力しなければならない。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう利用者の状態に合わせた声かけや対応を行っている。特にトイレや入浴の誘導時は利用者本位の対応に努め自尊心を傷つけない努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から、本人の思っている事等を把握できるよう心がけている。その方の能力に合わせた声かけをすると共に表情・態度から察して、思いや希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間はほぼ決まっている。それ以外はその方のペースで過ごせるように努めているが、職員側の都合に合わせて頂く事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整えたり、服を自分で選んでもらう等対応している。季節に合わない服装の時は声かけし調整する事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	作業は職員が行っている。利用者の好みに合わせて献立を変更したり、美味しく食べてもらえる工夫をしている。出前をとる日もある。毎食一緒に食事し、会話等を通して楽しい時間となるよう努めている。	利用者の体調や好み、季節に配慮した食事の献立となっている。野菜の下準備等は出来る利用者に手伝ってもらいながら一緒に行っている。また、職員も一緒にテーブルを囲み、食事の時間が楽しい時間になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態や量・食器で提供し、食事摂取量・水分量のチェックを毎食行っている。不足している時は代替りの物を提供。体重の増減も考慮して支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた対応をしている。うがいが難しい方はガーゼで口腔内を拭き取る介助をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自ら訴えられなかったりオムツ使用の方でも、時間や本人の希望でトイレ誘導を行っている。一人ひとりに合った排泄介助に努めている。	利用者の生活習慣から把握した排泄パターンや本人の意思表示に合わせて、トイレへ誘導をしている。オムツからリハビリパンツへ、リハビリパンツから布パンツへ改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の時は、牛乳・ヤクルト・野菜ジュース等を提供したり、トイレに座ってもらう等対応している。それでも改善されない場合は、個々に合った下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎朝入浴希望の確認をとり、しばらく入っていない方には促すような声かけをしている。できるだけ希望に沿うよう対応しているが、難しい時は説明をして理解を得るようにしている。	浴室は広く明るくリフト浴、機械浴等の設備が完備されている。入浴は利用者の希望を聞き対応している。また、季節感を取り入れ気分転換が図れるようしょうぶ湯やゆず湯などの工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調・気分に応じて、休めたり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の際にお薬情報を貰い内容把握に努めている。薬の変更があった場合は特に注意し、体調をよく観察し詳しく記録している。誤薬させないように十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事をお手伝いしてもらったり、昔の仕事や趣味の話の聞いたりしているが、一人ひとりに対応できない時もある。楽しみごとへの支援に力を入れていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出掛ける支援は行っているが、なかなか希望通りには対応できない現状である。日常的な支援に近づける努力をしたい。	利用者の希望を聞きながら散歩、スーパーへの買い物等に出かけている。帰宅願望の強い利用者のためのドライブも行っており、家族の協力を得た外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所管理としているが、必要に応じて自由に使えるようになっている。一人ひとりの希望や能力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けたりしているが、一部の方に限られる現状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節感のある物を掲示したり、冬は畳場にこたつを出している。明かりや室温については、利用者に確認しながら調整している。	共用空間は広く明るく、空調設備で温・湿度が適切に調節されており快適な空間となっている。壁面には利用者一人ひとりの作品や写真、季節に合わせた掲示物が飾られている。また、ホールのどこにいても調理やご飯の炊けるにおいを感じられ、五感刺激につながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには食事テーブル・ソファ・畳場があり、それぞれ好きな場所で過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ベットやタンスは備え付けの家具の持ち込みは少ないが、それらの配置を個人に合わせ対応している。馴染みの物を置いたり、写真を飾ったり、居心地の良い居室作りに努めている。	居室の温度は快適に設定されており、部屋にはベットやクローゼット、整理ダンス、洗面スペースが機能的に設置され生活の利便性を高めている。また、自宅より持ち込んだ、なじみの生活用品(テレビ、ラジオ、時計、椅子、テーブル等)や家族の写真があり、居心地よく安心して過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸に目印を付けたり、トイレの張り紙をしたり等工夫している。ぶつかると危ない所を保護して、自由に安全に行動できるようにしている。		